

## 刊行にあたって

信州大学附属図書館長

笹本 正 治

信州大学は昭和 24 年 5 月、国立学校設置法に基づいて、旧制の松本高等学校、長野師範学校、長野青年師範学校、松本医学専門学校、松本医科大学、長野工業専門学校、長野県立農林専門学校及び上田繊維専門学校を包括し、文理学部、教育学部、医学部、工学部、農学部及び繊維学部からなる新制の国立大学として発足した。

私たちの附属図書館は、大学発足とともに全 6 学部と教育学部分校に分館を置いた。現在の中央館は昭和 48 年 3 月に竣工し、昭和 49 年 4 月に松本地区（現松本キャンパス）の県町分館及び教養部分館を統合して、事務組織をも整備した。その後も学生や教職員の研究や教育に資するため、順調に発展を遂げてきた。

平成 22 年の貸出者数は 62,363 人、貸出冊数は 102,634 冊にも及ぶ。蔵書数は 1,246,125 冊にもなり、その内には山に関する資料約 8000 冊からなる小谷コレクション、信濃国旧藩校で使用されていた和漢書 124 点、1180 冊からなる藩文庫、約 3 万点からなる画家・彫刻家として有名な石井鶴三関係資料など、貴重な特殊コレクションもある。

本の収集や保管のみならず情報の収集や発信にも力を入れており、信州大学学術情報オンラインシステム（SOAR）内には、研究者総覧や機関リポジトリが入っている。また、近世日本山岳データベースでは、附属図書館が所蔵する「小谷コレクション」中の近世（主に江戸時代）の和古書 585 冊、古地図等 68 点を公開している。長野県遺跡資料リポジトリは、埋蔵文化財調査報告書を報告書抄録のメタデータとともに電子全文データを Web 上で公開しているが、1,640 点は現時点で日本一の数である。

さらに、地域連携にも力を入れており、松本市・安曇野市・塩尻市の図書館とは連携協定を結んでいる。今後も広く市民の支持を得られる図書館としても成長していきたい。

こうした多面性を持つ信州大学附属図書館では、前述の方向性をさらに推し進めるため、本学の所蔵する本や資料などを研究し、発表する場所を用意したいと考えてきた。本学の優れた教職員や学生、市民などが新たな視点で特殊コレクションなどを見つめ直せば、きっと新たな学問の地平が開かれるはずである。図書館としてもそのような動きを推進していきたい。

SOAR の立ち上げ、近世日本山岳データベースの公開などは、それ自体が職員と研究者の共同作業であり、そこには技術の開発や公開の推進などの努力があった。地域連携のあり方なども同様である。そうした、図書館の方向性や問題点なども、多くの人と論議していきたい。

図書館の職員たちは少しでも図書館をよくしようと様々な研修会を行い、研究発表を繰り返してきた。2011 年 10 月に発行された『PLAN "the FIRST" 2011-2013』において、山沢学長は信州「知の森」

づくりのための基本的な行動指針として、「豊かな経験と専門性を併せ持つ職員」を求めているが、図書館職員は前々からその努力を積んできた。彼らが報告した内容などを伝える場も用意したい。

このような思いが重なって、私たちは『信州大学附属図書館研究』を発刊することができた。これは未来に向かう信州大学附属図書館の新たな歩みの第一歩に過ぎない。よりよい図書館とは何か、図書館でできる、あるいは図書館でしかできない研究とは何か、いかにしたらより快適な図書館になれるか、様々な視点から今後の図書館像をも探っていきたい。

その成果を、この新たな革袋に詰めていくつもりである。今後とも皆様のご支援をお願いしたい。

平成 24 年 3 月